

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつひめじにしこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
26～30	①学校名	兵庫県立姫路西高等学校				県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 840名 1年：280名（7クラス） 2年：279名（7クラス） 3年：281名（7クラス）	
普通科	80	80	80		240		
⑥研究開発構想名	リベラル・アーツプロジェクト ～世界に飛翔するグローバル・リーダーの育成～						
⑦研究開発の概要	語学力に加え、高度なコミュニケーション能力と発信力、幅広い知見と国際的素養を持ち、主体的かつ積極的に世界で活躍するグローバル・リーダーを育成するため、人文科学・社会科学・自然科学の各分野を深く学んで身につけた高い専門性を基盤に、発展的に学ぶ、課題研究や海外研修等の教育国際プログラムなど、3年間を通じた発展的な教育システムを研究開発する。						
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>国内外の小中高校・大学・企業・関係機関等と連携し、「知」の創造、養成・育成の視点から、国際的視野・感覚、発信力、問題解決能力等、グローバル化に対応し得る資質・能力を生み出す教育システムの研究開発を通して、グローバルな「知」の拠点づくりに取り組む。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、日本で最初に認定された世界遺産の1つ姫路城が建つ姫路市に設置された、創立136年を迎える全日制普通科高校である。兵庫県西部のトップ進学校として地域に信頼されている。豊かな人間性と幅広い学力を兼ね備え、将来リーダーとして国際社会や地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。生徒はバイタリティに溢れ、質の高い文武両道を目指して取り組んでおり、多くの部活動で全国大会や近畿大会に出場している。</p> <p>今後、グローバル化が急速に進んでいく現状にあって、トップ進学校としての本校には、豊かな国際性と高度な問題解決能力・コミュニケーション能力・発信力等を備え、国際的に活躍しようとする、より高い志を持った人材を輩出する使命が課せられている。そこで、大学・企業・姫路市等と連携し、同市も抱えるグローバルな社会・ビジネス課題の解決に向けた研究やグローバル人材育成に資する研究を行うことで、地域社会に貢献する一方、グローバル・リーダーを生み出すグローバルな「知」の拠点校として人的資源の開発や人材育成のシステムづくりを担う。</p> <p>①「知」の創造として、世界遺産姫路城を活用した課題研究等により、課題設定の俯瞰力、論理的思考力・問題解決能力等の育成。</p> <p>②「知」の育成として、海外の高校や大学との連携、地域資源の活用による国際交流事業の実施による語学力・コミュニケーション能力・発信力等の育成。</p> <p>③「知」の養成として、英語プレゼンテーション・ディベートによる国際的視野・感覚等の養成。</p> <p>④「知」の拠点として、地域の大学、高校との研究活動等によるキャリアプロジェクトを実践し、拠点づくりをめざす。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①SGH課題研究フォーラムの開催 ②国際交流フェスティバル等における政策提言 ③小中連携行事における発信 ④高校学力向上推進プロジェクト事業研究発表大会の開催 ⑤学会・研究発表大会出場 ⑥研究報告冊子の発行等</p>						
	⑧-1全体	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>「知」を創造する国際戦略の研究。具体的には、「世界都市の構築とネットワーク化」「ビジネスのグローバル化」「持続可能な国際社会の構築」「歴史ツーリズムと国際観</p>					
⑧-2課							

<p>題 研 究</p>	<p>光開発」という4つの枠組みのなかで、生徒一人ひとりが「グローバル都市デザイン」「サービスビジネスの国際戦略」「循環型グローバル社会の構築」「世界遺産を核としたグローバル都市づくり」等の課題テーマを設定する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>①大学との連携による「世界都市の構築とネットワーク化」の研究 ②大学・企業との連携による「ビジネスのグローバリゼーション」の研究 ③大学との連携による「持続可能な国際社会の構築」の研究 ④大学・関係機関との連携による「歴史ツーリズムと国際観光開発」の研究</p> <p>課題研究については、ハーバード大学・西オーストラリア州立大学・地域の3県立高校（加古川東高校・龍野高校・姫路東高校）等とも連携する。また、課題研究を深めるため、課題研究講演会を実施する。</p> <p>検証評価は、評価指標を設け感想文やアンケート、ポートフォリオ等に基づき、生徒・保護者・地域の人々・関係者等の変容を評価するとともに、運営指導委員会を活用した外部評価を実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>平成27年度より「知の総合」類型を開設し、当該生徒に次の特例を適用する。</p> <p>①学校設定科目「知の探究Ⅰ」「知の探究Ⅱ」「知の探究Ⅲ」により「総合的な学習の時間」を代替 ②学校設定科目「国際人文科学」（国語総合1単位減単）「国際社会科学」（現代社会1単位減単）「地域資産と国際性」を設置</p> <p>なお、平成26年度入学生から「総合的な学習の時間」の課題研究の中で、「国際人文科学」「国際社会科学」「地域資産と国際性」を選択し、先行実施する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>①ハーバード大学、西オーストラリア州立大学との研修・交流等による国際交流戦略プロジェクトの研究 ②学会・研究発表大会における英語のプレゼンテーションやディベートによるグローバル教育プロジェクトの研究 ③地域の小学校・中学校・高校・大学と連携したキャリアプロジェクトの研究</p> <p>検証評価は、評価指標による評価に加え、運営指導委員会を活用した外部評価を実施。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>平成27年度より「知の総合」類型を開設し、当該生徒に次の特例を適用する。</p> <p>学校設定科目「国際英語活用」「英語プレゼンテーション」（コミュニケーション英語Ⅰ1単位減単）「コミュニケーションデザイン」「国際英語研究」「アカデミックライティング」を設置</p> <p>なお、平成26年度入学生から選択により「国際英語活用」「英語プレゼンテーション」「コミュニケーションデザイン」「国際英語研究」「アカデミックライティング」を課題研究以外として取り組み、国際的素養を育成する教育課程の研究を行う。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>①学会・研究発表大会における英語のプレゼンテーションやディベートによるグローバル教育プロジェクトの研究（再掲） ②地域の小学校・中学校・高校・大学と連携したキャリアプロジェクトの研究（再掲）</p>
<p>⑨ そ 他 特 記 事 項</p>	<p>①兵庫県教育委員会所管の「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」理数教育重点指定校（H22～） ②兵庫県教育委員会所管の「高校学力向上推進プロジェクト事業」指定校（H24～） ③活動内容は、HP及び西高SGH通信・白城会（同窓会）通信により広報する。</p>

ふりがな	ひょうごけんりつひめじにしこうがっこう	指定期間	26～30
学校名	兵庫県立姫路西高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:		840人	840人	人	人	人	720人
目標設定の考え方: 現状、全校生が取り組んでおり、今後も継続。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		21人	23人	人	人	人	37人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は2年次までに全員。対象外生徒は事業の還元効果により毎年1割増加。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		5%	5%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: SGH対象生徒は全員。対象外生徒は事業の還元効果により現在の倍増。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	12人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は1割。対象外生徒は毎年1人増加。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	30%
	SGH対象生徒以外:		16%	14%	%	%	%	25%
目標設定の考え方: 現状、GTEC680以上の生徒を基準に算出。SGH対象生徒は1割増加、対象外生徒は5%増加。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		34%	31%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: SGH対象生徒は過去2年の平均割合の2倍。対象外生徒は事業の還元効果により同じく1.5倍。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	4人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は1割。対象外生徒は事業の還元効果により毎年1人ずつ増加。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	25%
目標設定の考え方: SGH対象生徒は全員。対象外生徒は事業の還元効果により毎年5%増加。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	160人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は全員。対象外生徒は将来留学・国際的活躍を考える生徒の割合と同じく2割。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は2年次に全員。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は全員。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 27年度より海外2カ所、高大各1校、計4校で課題研究。以降、毎年現地の高校もしくは大学各1校増加。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	0人	人	人	人	人	人	190人
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	92人
目標設定の考え方: 講話4人×1回、指導4人×22回(5月より月2回)、合計92回。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: SGH対象生徒1年生は半数、2・3年生は全員。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	20人	40人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 現在の交流校2校から毎年1校増加、5校を目指す。1校20人で算出。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 毎年1回増加、5回を目指す。								
外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 外国語によるホームページを整備予定。								
地域の小・中・高校への事業の還元状況								
j	500人	600人	人	人	人	人	人	1000人
目標設定の考え方: 現在実施している地域の小・中・高校と連携した学校行事の参加者数をもとに、毎年100人ずつ増加。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	840	840					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							